

2016年度 第2回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2016年7月12日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：阿部恵子、五十嵐強、荘雄一朗、竹谷陽子、辻信明、渡辺真也、渡辺裕一
＜以上7名、敬称略、五十音順＞
- 出席職員：小平福祉活動推進課長、飯塚ボランティア・市民活動センター係主任、
嶋田主事、長山コーディネーター

【配布資料】

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2016年5～6月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告(2016年5～6月)
- 資料 3：ボランティアコーディネート実績(2016年5～6月)
- 資料 4：2016年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（7～8月）
- 資料 5：2016年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録＜未定稿＞
- 資料 6：3つの取り組みについて
- 資料別紙：夏！体験ボランティア西東京 チラシ
- 資料別冊：2015年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録＜確定稿＞
（後日郵送）

1. 報 告 事 項

(1). 業務報告（2016年5月・6月）および予定（2016年7月・8月）について

○事務局より資料1～4に基づき、2016年5月から6月末までの業務について報告と7月・8月の予定の報告を行う。

○質疑および協議

委 員：相談受付状況で、「その他」の内容にはどのようなものがあるか。

事務局：総合福祉センター館内の案内やリサイクルの相談などがあった。

委員長：口頭でなく、メモ書きで残すようにしたということなのか。

事務局：メモとして残すようにした。

委員長：月次報告にきらっとシニアの取材があったが、次回、ボランティア活動の特集を組むことになっており、ボランティアセンターの職員に現状と課題を話してもらった。

委員長：前回の運営委員会でも検討したが、6月から偶数月に正副委員長の打ち合わせを行っている。内容は、運営委員会が出た議題の整理と次回の議題についての話し合いをしている。

委員長：夏！体験ボランティアがメインの行事であると思うが、申し込みは小中高、一般とある、受け皿としての施設もある。今年の状況や特徴的なことなど、教えてほしい。

事務局：例年同様、小学生以上からの受け入れをしている。分野としては、高齢者、保育、障がい、地域、青少年、国際交流の6つの区分に分かれている。昨年と違い特徴的に感じられる点

は、小学生の保育園の受け入れが少なくなったが、保育に集中せず全ての分野にまんべんなく参加者がいる点と、小学生の参加申し込みが例年に比べて多い点があげられる。

7月12日時点で、小学生23名、中学生以上45名で総数が68名の参加申し込みがある。

委員長：保育の体験は具体的にはどのような内容か。

事務局：保育園によるが、子どもたちと一緒に遊ぶだけの所と、それに加えて、洗濯物を畳んだり、食器を洗ったりなど裏方仕事も含めて体験するところと2分化されている。

委員長：小学生の参加者の保育園希望が多いという話もあったが。

事務局：小学生は子どもたちと一緒に遊びたいという希望が多く、ボランティアか否かの区別がつきづらい状況になることはある。ボランティア体験という視点で保育士の業務に触れる機会・体験という意味で行ってもらっていた。今年は各分野まんべんなく参加がある。

委員長：ボランティア体験というより、一緒になって遊ぶといった要素が強いのではないか。

事務局：保育士には裏方仕事もあるという点で、お仕事体験的に行っている要素も強い。中学生や高校生になって体験した時との理解が変わっていくことも勉強になっているようだ。

委員：何回も参加している子どもたちはどのくらいいるのか。

事務局：全員確認できていないが、14～15人は確認できている。

委員：初めて参加される方のきっかけはなんだろうか。

事務局：市内の小学生の全児童にチラシを配布している。それを見て参加したいと申し込んでくる児童と、チラシを見た親が促して参加してくる児童と2パターンあるようだ。

委員長：校長会と接触を持ったらという話も以前出ていたが、その効果があったのではないか。

事務局：委員のお一人からご助言いただいたように副校長に直接持参したが、その効果が大きかったように思われる。教員にも配りたいので多めに配布してほしいという要望もあった。

委員：校長会に出席したのか。

事務局：6月に出席したかったが、6月の開催予定がなく7月8日の校長会に出席した。その際には、夏！体験ボランティアだけでなく、総合学習についても説明をした。

委員：高校にも行っているのか。

事務局：高校はほぼ郵送対応している。また全学年に配布することが難しいので、1年生のみ全クラスに配布している。大学にも郵送はしている。去年送付したところには今年も送付し、今年初めて見かけるような学校も来年度以降にはチラシを送付したいと考えている。

(2) 市民協働推進センターゆめこらぼ運営委員会の傍聴について

委員長：6月21日（火）にゆめこらぼ運営委員会の傍聴に行ってきた。中身がかなり違う印象があり、サークルや団体がベースとなり、サークル間の企画・検討がされている印象を受けた。ボラセンは個人に対してのコーディネートとイベントと講座の3つ行っているが、個人を対象にコーディネートを行っていることはゆめこらぼにはなく、ボラセンの一つの機能として重要であると再認識した。それから、ゆめこらぼ同様、行事を行う際には企画書を運営委員会で検討し、合意を得て実施をするという形でやってもらうほうが良い。

また、ボラフェスとNPOフェスの共催については今年度は難しいが、来年の企画に向けて情報把握の意味でNPOフェス運営委員会に参加していくことを事務局にお願いした。ボラセンと市民協働推進センターの棲み分けは、他市では運営母体が違うので関係が悪い

所もあるが、西東京市の場合は同じ運営母体なので、連携をすれば棲み分けしやすい。

今回は、ゆめこらぼ側から見学が来るかもしれない。今後、相互の見学を続けていき、運営委員会同士の交流や顔つなぎ、打ち合わせなどもできるのではないかと印象であった。

(3). ボランティアのつどいの実施について

事務局：NPO市民フェスティバルと共催の方向で昨年度から検討を重ねてきたが、最終的に方向性が決定できなかったため、今年度は単独開催として行うこととし、前回の正副委員長の打ち合わせで承認をいただいた。なお、今年度は平成29年2月19日(日)に田無総合福祉センターで行いたい。今後、実行委員を集めて実行委員会を開催する予定。共催については、今後はやらない訳ではなく、来年度以降に向けて引き続き話し合っていく予定である。

委員長：NPOフェスも今年からアスタセンターコートに移った。人の動きは多いが、スペースが狭い場所なので、共催となると様々な課題も出てくる。実施方法を工夫する必要がある。

事務局：今回、共催の話を進めようとした際に、ゆめこらぼ側からの提案は、金曜日夜方の2～3時間程度の提供という内容であった。ただこれだけ限られた時間で使用して、「共催」と打ち出すのは厳しいと思われたことも、今回の単独開催にした理由の一つでもある。

委員長：運営委員会でも今後議題化していてもよい。こちら側の提案や考え方をまとめて提案していく必要があるだろう。短時間の場所借りだけでは共催とは言えない。ただ、基本的には別々よりも一緒に実施したほうが、市民に対しては良いと思われる。

委員：ゆめこらぼのNPO市民フェスティバルはいつ開催する予定か。

事務局：予定では、平成29年1月20日、21日、22日となっているが、会場のアスタセンターコートで工事が入る予定となっており、もしかしたらずれるかもしれない。

委員：これまではボラフェスは6月ごろ行っていたが、今回2月になったというのは、NPO市民フェスとの調整があったため、日程が変わったということか。

事務局：その通りである。検討したことにより、スタートが遅くなってしまったため、開催日程も遅くなった。また4月の時点で中身が詰められておらず、提案された内容では、去年の参加者にも説明がつかない、またこのことを伝えていない方も多くいるため、先送りすることを提案した。担当理事からも強引にやるのではなく、時間をかけて行おうとの話がある。

2. 審 議 事 項

(1). 2016年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

● 2016年度第1回運営委員会の記録について確認を行う。

事務局：今までの体裁と異なったものを資料送付してしまった。従来通りの体裁で再度送付させていただくこととする。後日、書面議決書とともに送付するので回答をお願いしたい。

3. 協 議 事 項

(1). 今後の事業の方向性について

○事務局より資料について説明を行う。

*資料6は、第1回運営委員会の意見を分類し、3つの柱の他に「そもそもの役割や位置づけにつ

いて」の意見もいくつかあったので項目を立て、4つに分類したものである。

○意見交換

委員長：事務局から社協内で係をまたいで実施する事業について説明してほしい。

事務局：りんくやふれまち、ほっとネットなど、それぞれでボランティアを募るのは、ボラセンの存在を薄くさせ、役割を取ってしまい、好ましくないということから、3係合同によるボランティア講座を開催することになった。日程は本年12月8日で、内容はボランティアの基礎的な内容、傾聴のミニ講座および、ボラセンやふれまちなどの活動先紹介を予定している。

委員：各部署との打ち合わせの中で、そもそものボランティアセンターの位置づけや役割について話し合ったとのことだが、詳しく聞かせてほしい。

事務局：同じような事業が多くある中で、ふれまちでの「助け合い活動」、ほっとネットでの「ほっとネット推進員」、りんくでの「訪問協力員」や「介護支援ボランティアポイント制度」がある。市民ボランティアをベースとした事業がかなり混在するようになり、職員でもわかりにくいので、市民からは更にわかりづらいため整理が必要であるという認識は持っていた。そのような中で、課内会議において事業を整理する話しがされ、「ベースはボラセン」であるということを確認し、ふれまち、ほっとネット、りんくの役割を描いているところである。いずれにしてもベースはボラセンであるが、ベースだからこそわかりにくい部分もある。それぞれの事業で独自に呼びかけて募集をしているので、ボラセンを使うことができないのかと思うところはある。ほっとネットのような事業でも他社協ではボランティア募集等はボラセンに任せている所もある。ただスタッフ体制が厳しいので、その点も課題ではある。

委員：ボラセンがベースであるということを各機関で確認できたことが一番大事である。ボラセンがいかに役割を果たしていくかは他の機関からも求められてくる点なので、スタッフ人数等の問題もあるが、機能を明確に打ち出し、何ができるのかを明確にすれば連携ができる。ボランティア講座を一緒に行うことで、それがベースになり様々な事業の募集につながる。ボラセンがベースになって行うことで、ボランティアする側にも色々な選択肢が見える。いろいろなボランティア活動の出会いが提供できるようになってくると思われる。

委員長：まさに、プラットフォームづくりである。ボラセンがベース、つまりプラットフォームになって整理をし、市民から見えやすくするというところでもある。

委員長：12月の講座の概要をお話いただけるとありがたい。

事務局：まだ日程だけが決まった状態である。次回の課内会議で企画案が出て検討する予定である。

委員：ふれまち、ほっとネット、りんく、ボラセンは、すべて福祉活動推進課の中の組織なのか。

事務局：その通りである。

委員：社協は同じだが、それぞれの事業で行政の部署が違ってくると思うが。

事務局：りんくは高齢者支援課、ほっとネットは生活福祉課、それぞれは委託事業。ふれまちは社協事業で、市の補助金をいただいている。所管は生活福祉課、ボラセンも生活福祉課が所管の補助事業である。ちなみに、ゆめこらぼは、協働コミュニティ課の委託事業である。

委員：ボランティアは基本的にボラセンで募って、それぞれで活動してもらうことは可能か。

事務局：ほっとネット推進員の仕組みは委託事業なので変えられないが、なっていく過程、紹介などはボラセンでかかわっていくことはできる。

委員：行政は残念ではあるが縦割りではない、ただ機能的ではない。だから社協がベースに

なるものを持ち、横につなぐ仕組みをきちんと作り、横断的に機能させる仕組みを持つようにすれば良いのではないか。そのような意味でもプラットフォームづくりというのは、関係機関がたくさんある中できちんとコーディネートできる存在である。縦割りは無駄が多いイメージもあると思うが、実は横につながり、ニーズも共有されていれば、人材も活用できる。

委員：様々な場面で重複して活動している人が多い。ただ一般の人には、ほっとネットとふれまち助け合い活動の区別がつかない人も多い。そのような方々にボラセンが説明をしてつないでいく役割をしても良いと思っていた。ベースにボラセンがなるということであるなら、ボランティアはボラセンで募るほうがすっきりして市民も理解しやすいし、集まりやすいのではないかと思う。ボランティアの登録もボラセンで一括してできると良い。

委員：ボランティア養成講座をいろいろなものを含めた形で実施することができれば、1回の実施で済むこともあるのではないか。加えてそれぞれの機関から協力を仰げば、職員が不足する分も賄えるのではないか。総合的なボランティア養成講座として、それぞれの事業のエッセンスを交えて開き、それぞれで活躍できる人を育てる、各論で必要なところがあれば、それぞれの機関に登録行ったときになどに行う形にするとよい。

事務局：3係合同の講座を12月に予定しているが、ボランティア活動に共通する基本スキルは受容＝傾聴がベースになることを確認し、傾聴の講座を1つ実施しようと話が出ている。そこから各セクションの紹介をするという形で、今年度は試行的に実施しようと考えている。

また、ボラセンの機能を強くしていくことを並行してやっていかなくてはいけない。ベースといっても受け入れ態勢ができないと実施することができない。もう一方として、それぞれ委託を受けているところは市民の発掘からやるようなオーダーが出ているので、それをボラセンベースでやるということへ変えるための行政との交渉をやらなければならない。委員会からも意見が出されていることを行政との交渉の中でも伝える必要があると考えている。

委員：『複数事業対応共通認定ボランティア講座』など、インパクトのある講座名で打ち出してもよいのではないか。この講座を受ければいろいろな活動ができるというのが一目見てわかるとか、縦割り行政を横につないでいることが一目瞭然になるようなものが良い。

委員：ボランティアの発掘もそれぞれの事業で行うような指導なのか。

事務局：養成は請け負っている。養成講習会をそれぞれの事業で広報し、実施している。ある意味発掘である。それがなければほっとネットなどは事業の中で個別の支援など地域を作っていくという事業を今よりも時間を割くことができるようになると思われる。

災害ボランティア養成講座のように特化していればわかりやすいが、ほっとネットやふれまちなどの少しわかりづらい地域のための活動というのは何が違うのかと問われやすい。

事務局：今、ボラセンでは圏域はなく西東京市全域で対応している。コーディネーターが今一人で行っているので、せめてあと一人増えれば今までできなかったことも行っていくことができるのではないか。また、ボランティア登録されている市民もスキルアップを望んでいるが、ボラセンとして打ち出せず、ほっとネットなどに先に開催してもらっている状況である。本当は実施したい、もっともっと行っていきたいができないことがもどかしい状況である。

委員：まさしくそれが社協の中のボラセンの位置づけなのではないか。社協がボラセンをどう考えるか、社協が本当にボラセンを必要とするということであれば、予算をきちんとつけるだろう。縦割りを横につなげていく役割をボラセンが担うという認識を、社協にどう理解しても

らうのか。ベースであることを確認することは簡単だが、それも踏まえて考える必要がある。

委員長：こういう運営の中身を議論しているのはボラセンの運営委員会だけではないか。運営委員会の中で出ている3つをさらに絞って、仕事を明確にしていくということを明らかにできればと思っている。どのようにすればよいのかという形を具体的な議論をして作っていきたい。運営委員会がバックになって社協に対してものが言えるようになれば力になるのではないか。福祉教育も夏ボラに絞って言えば、ボラセンしかやっていない事業で、ボランティアを養成しようという明確な意図がある。コーディネートで言えば、個人登録の在り方を整理しようという話しも今回出ている。現在、コーディネーターがやっていることを膨らませていくということも考えの1つとしてある。また、具体的なテーマに絞ると前に進むとも思っている。

委員：計画になっていくという議論ですね。

事務局：社協として地域福祉活動計画という5年物の計画を作っているが、2年かけて計画を作っていくというパターンが多く、来年度、再来年度とかけて31年度からの計画作りをする予定。長いスパンで見れば、来年度から取り組み始める地域福祉活動計画の中で、社協としてのボランティア活動、西東京市としてのボランティア活動を議論していくことにはなるだろう。

委員：ボラセンとしての計画を作りましょうということでこの議論があるので、次の計画はその次に話してもらうとして、ここはこの議論を深めるということである。これを、社協としては今の小さな形でやってほしいという考えがあるのなら、早めに説明に来たほうが良いと思う。運営委員は、ボラセンをどうやって機能させていくかという話をする中で、機能としては大きくしする、機能的な在り方を検討をすることになる。もし違うのであれば、小さい中でどのようにやっていくかの議論をしっかりとしなければならないので、方向性が違うのであれば早く説明をしていただければ、より身になる議論ができると思われる。

委員長：運営委員会に何を求めているかということでもある。

委員長：プラットホームの問題として、課題を運営委員会としても勉強させてもらい、上層部にテーマとして提起できるように具体化できればと思っている。

4. そ の 他

(1). ボランティア・市民活動センター運営委員およびセンター長等合同会議について

■開催日時：平成28年9月2日（金） 14時00分～18時00分まで

※18:00～19:30は同会場にて任意参加での情報交換会（会費1,500円）

■開催場所：飯田橋セントラルプラザ12階 会議室A・B・C

委員長：過去に参加した際に、他でどのようにしているか知る上で非常に参考になった。

事務局：運営委員であれば何名でも参加できる。8月22日までに出席を申し出てほしい。

(2). 次回運営委員会開催日程について

■開催日時：2016年9月13日（火） 18時30分～20時30分まで

■開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室

●以上をもって、2016年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。